



高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくためには、**地域の人々と顔の見える関係**を築き、**お互いに支え合う**ことが大切です。今回は、休泊地区の**高齢者同士の交流の場**について紹介します。

休泊地区「休泊ふれあい大学」



行政相談講座



シニアeスポーツ体験

「休泊ふれあい大学」は、高齢者同士の交流を深めるとともに、教養・文化の向上や健康維持を図ることを目的に、毎年5月に開講し、年間7回の講座を開催しています。運営は行政センターが中心となり、65歳以上の高齢者を対象に参加者を募集しています。今回は、令和7年7月に実施された「行政相談講座」と、令和8年7月に実施された「シニアeスポーツ体験」の様子を紹介します。

行政相談講座(R7.7.29)



グループに分かれて意見交換する様子

行政相談委員制度は70年以上の歴史があり、全国で約5千人の行政相談委員が活動しています。太田市では、市内に3名、旧3町に各1名の計6名が配置されています。この日の相談事例としては、「太陽光発電設備の敷地に雑草が繁茂している」「ハチの巣の除去について」「道路の補修について」などが挙げられました。

講座には28名が参加し、はじめに行政相談委員から制度や活動について説明がありました。その後、参加者は3グループに分かれ、「地域で困っていること」や「改善してほしい場所」などをテーマに意見交換を行いました。行政相談委員のような身近な「つなぎ役」がいることで、区長や民生委員だけでは対応しきれない様々な困りごとについても、気軽に相談することができます。行政相談委員は、住民にとって身近な「よろず相談の窓口」として、地域と行政をつなぐ大切な役割を担っています。



行政相談委員のみなさん

地域のお宝発見 ～太田市生活支援体制整備事業～

シニアeスポーツ体験には、21名が参加しました。近年は感染症の流行や猛暑の影響もあり、シニア世代の外出や交流の機会が減少しています。そのような中、「シニアeスポーツ」は新たな交流や社会参加の手段として注目されています。

シニアeスポーツ体験(R8.7.28)



太鼓の達人の様子



ボーリングの様子



ドライブシュミレーターの様子



小林 茂弘 学長

休泊地区では、高齢者人口が増加する一方で、高齢者同士が交流する機会は減少傾向にあります。そうした中、ふれあい大学には休泊地区の各地域から参加者が集まり、様々な講座を通して、一緒に話をしたり、体を動かしたりすることができるため、交流を深める場として、とても意義のある取り組みだと思っています。

～参加者の声～



太鼓の達人もボーリングも初めて体験しましたが楽しかったです。次の講座も楽しみです。

長谷川 和男さん



どのゲームも実際に操作すると難しかったですが、新鮮で楽しく体験できました。

木原 ゆりかさん



太鼓の達人はストレス解消になった。運転ゲームも、免許返納以来久しぶりに運転しているような感覚を味わえて楽しかったです。

山根 ユリ子さん

休泊ふれあい大学は、「行政相談講座」や「eスポーツ体験」などの多彩な講座を通じて、高齢者が教養・文化の向上を図る貴重な機会となっています。また、地域の垣根を越えて高齢者同士が交流することで、新たなつながりが生まれ、休泊地区全体の活性化にもつながっています。

フォローして

Instagram

